

# エノケンの頑張り戦術

[1939年 東宝(東京)]

---

## [スタッフ]

脚本 小国英雄  
監督 中川信夫  
撮影 伊藤武夫  
照明 佐藤快哉  
録音 安恵重遠  
音楽 栗原重一  
装置 吉松英海

## [出演者]

|       |       |
|-------|-------|
| 稲田    | 榎本健一  |
| 妻 文子  | 宏川光子  |
| 倅 健二  | 小高たかし |
| 三田    | 如月寛多  |
| 妻 武子  | 渋谷正代  |
| 岩城課長  | 柳田貞一  |
| 妻 初枝  | 柳文代   |
| 菊龍    | 音羽久米子 |
| 誘拐犯人  | 金井俊夫  |
| ブローカー | 北村武夫  |

(白黒／スタンダード／モノラル／74分)

浅草オペラ出身で、「カジノフォーリー」の人気者として世に知られ、日本初の本格的レビュー映画『エノケンの青春酔虎伝』(1934)以来、戦後にまたがって数々の映画に主演した不世出の喜劇役者、榎本健一。この作品は、エノケンが最も脂の乗っていた時期のもので、防弾チョッキ製造会社で犬猿の仲である二人の社員が、何事にかけても張り合う姿を抱腹絶倒の喜劇に仕立てたもの。ライバル社員に榎本の実家のせんべい卸屋で使用人だったという経歴を持つ如月寛多、会社の課長に浅草オペラ時代の師匠だった柳田貞一という馴染み中の馴染みを配している。監督の中川信夫は主にマキノ正博監督門下で修業を積み、映像のリズム感に優れた時代劇を撮っていたが、この頃はエノケンの座付き監督とも言える位置にいた。戦後は『東海道四谷怪談』(1959)などの傑作を発表し、怪談映画の巨匠としても知られている。

# 大当り三色娘

[1957年 東宝]

---

## [スタッフ]

原作 中野実  
脚本 井手俊郎  
監督 杉江敏男  
撮影 完倉泰一  
照明 金子光男  
録音 渡会伸  
音楽 神津善行  
美術 村木忍

## [出演者]

|       |       |
|-------|-------|
| 根室エリ子 | 美空ひばり |
| 小林トミ子 | 江利チエミ |
| 楠ミチオ  | 雪村いづみ |
| 京須肇   | 宝田明   |
| 吉岡進一  | 山田真二  |
| 松井宏   | 江原達怡  |
| 岡田真太郎 | 御橋公   |
| 岡田浜子  | 英百合子  |
| 岡田妙子  | 若山セツ子 |
| 板倉章太  | 若原雅夫  |
| 板倉英子  | 草笛光子  |

(カラー／シネマスコープ／モノラル／94分)

『ジャンケン娘』(1955)、『ロマンス娘』(1956)に続く、美空ひばり、江利チエミ、雪村いづみの三人共演によるミュージカル。冒頭で、雪村が赤、江利が黄、美空が青の皿を手にして紹介があり、題名も「三(青)」「色(黄)」「娘(赤)」と色分けされる。原作は戦前から劇作家として活躍していた中野実。監督は時代劇、喜劇、若大将シリーズを含む現代劇など幅広いジャンルで東宝作品を支えた中野実。監督は時代劇、喜劇、若大将シリーズを含む現代劇など幅広いジャンルで東宝作品を支えた杉江敏男。日本の女性映画美術監督を代表する村木忍は、『君も出世ができる』を含むミュージカル映画でも名高い。女中をしている三人娘がめでたく三人の男性と結ばれる物語が、邦楽と洋楽、日本舞踊とダンス、着物と洋装を交えて描かれ、「狸御殿」シリーズとハリウッドミュージカル映画が融合したような、東宝スコープ第1回のシネマスコープサイズを生かした、カラフルで陽気な作品。

# ニッポン無責任時代

[1962年 東宝]

---

## [スタッフ]

脚本 田波靖男  
" 松木ひろし  
監督 古澤憲吾  
撮影 斉藤孝雄  
照明 隠田紀一  
録音 斉藤昭  
音楽 神津善行  
美術 小川一男

## [出演者]

平均 植木等  
氏家勇作 ハナ肇  
谷田総務部長 谷啓  
黒田有人 田崎潤  
麻田京子 中島そのみ  
佐野愛子 重山規子  
まん丸 団令子  
洋子 藤山陽子  
孝作 峰健二

(カラー／シネマスコープ／モノラル／86分)

周囲が啞然としているうちにスイスイと出世街道を登ってゆくお調子者の男を通して、いわゆる高度経済成長の時代を笑い飛ばそうとする風刺的な喜劇。その風刺性は、「努力」や「忍耐」といった美德をまるで重んじない主人公の人生観ばかりでなく、平均(たいらひとし)なるその役名にも表われているだろう。前年に大ヒット曲「スーダラ節」で売り出したクレージー・キャッツの植木等は、この映画に主演したことで日本の喜劇映画の新しい顔となった。また、畳みかけるようなテンポが印象的な古澤憲吾監督の演出は、悪ノリも辞さない「クレージー」たちの芝居ともマッチし、同じくクレージー・キャッツが主演した「日本一の男」シリーズ(1963～71)などで東宝のサラリーマン喜劇に革新をもたらした。助演の団令子、中島そのみ、重山規子は青春喜劇「お姐ちゃん」シリーズ(1959～63)で知られる若い三人組で、この作品の明朗なタッチを支えている。

# 君も出世ができる

[1964年 東宝]

---

## [スタッフ]

脚本 笠原良三  
" 井手俊郎  
監督 須川栄三  
撮影 内海正治  
照明 高島利雄  
録音 刀根紀雄  
音楽 黛敏郎  
振付 関矢幸雄  
作詞 谷川俊太郎  
美術 村木忍  
" 竹中和雄

## [出演者]

|         |        |
|---------|--------|
| 山川善太    | フランキー堺 |
| 中井剛     | 高島忠夫   |
| 社長 片岡信吾 | 益田喜頓   |
| 娘 陽子    | 雪村いづみ  |
| 三田良子    | 中尾ミエ   |
| 服部紅子    | 浜美枝    |
| 大森課長    | 有島一郎   |
| 総務部長    | 藤村有広   |

(カラー／シネマスコープ／モノラル／100分)

東京オリンピックの時代を背景に、外国の観光団を自社に引き寄せようとする観光会社の争いをユーモラスに描いた本格的なミュージカル・コメディ映画。演劇の興行を母体とする東宝ならではのミュージカルだが、お得意のサラリーマン喜劇の要素も加味されているのは興味深い。監督の須川栄三は、出世の希望に燃えるフランキー堺といつも優柔不断な高島忠夫というコンビを軸に据え、さらに益田喜頓といった芸達者をからませながら、よどみのない、厚みのある物語世界を生み出した。ダンスの振付、音楽の構成、舞台装置、編集などあらゆる面で本場ハリウッドのミュージカル・コメディを研究した様が窺えるが、作曲面では登場人物のキャラクターごとに曲調をくっきり使い分けるなど、細かい工夫が随所になされている。とりわけ、雪村いづみ扮する社長令嬢に導かれて、オフィスで事務員たちが繰り広げるダンスのシーンは出色の出来映えであろう。